

新設機場で耐水モーター一体型ポンプを採用

吹田市から「雨水レベルアップ整備 中の島・片山ポンプ室機械設備工事」を受注

吹田市は約38万人が生活する大阪府の中核市で、「ビールのまち」「鉄道のまち」として知られてきました。市の北部は、関西大学や「太陽の塔」で有名な万博記念公園がある自然豊かな丘陵地(千里丘陵)ですが、市の南部は平地で雨水を直接川に排水できず、ポンプで排水しなければならない雨に弱い地形になっています。近年の集中豪雨では南部区域で浸水被害が頻繁に発生しており、吹田市ではこの問題を解決するべく「雨水レベルアップ整備事業」を策定・推進しています。

JR吹田駅北側の天道町から、駅南側の神崎川に面する中の島公園をつなぐ「中の島・片山工区」では、雨水レベルアップ整備事業について次の概要が公開されており、中の島ポンプ場を新設する本工事は、項目**2**の一環で行われます。

1 平成28年度から中の島町から天道町交番付近までの道路下に、直径2.8メートルの雨水レベルアップ管(容量約1万7500立方メートル、25メートルプール約60杯分)と分水マンホールの建設に着手する。

2 大雨に対応するため、取り込んだ雨水を晴天時に既設下水管へ排水するポンプ施設を中の島公園内に設置し、令和5年度の完成を目標に工事を行う。

下水道施設や雨水排水施設には、水害や震災に対しても機能が確保できる対策が求められており、今回受注した当社の耐水モーター一体型ポンプは、大雨によって万一ポンプが水没しても運転の継続が可能な耐水性能と、ポンプと電動機の一体構造による耐震性能を備えた災害に強いポンプです。また、ポンプと電動機が一体であることからフロアの高さを抑えることができるため、ポンプ場のコンパクト化も可能です。本工事では、とくに「ポンプ場をコンパクト化できる」というメリットをお客様が評価されて採用となり、2010年納入の南吹田下水処理場と合わせて、同市における2件目の実績となります。

現在は2023年12月の竣工に向けて機器の設計・製作が進められており、完成後は災害に強いポンプ設備として市民の皆さまの生命・財産を守り、安心・安全な社会づくりに貢献することが期待されています。

ポンプ名称	雨水排水ポンプ
口径・形式	CFV300-SM (耐水モーター一体型立軸渦巻斜流ポンプ)
台数	2台
原動機容量	75 kW